

橋梁技術発表会及び講演会

— 100年橋梁を達成する技術 —

参加費無料
定員 **350名**
申込先着順

会場 仙台国際センター2F大ホール

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
Tel.022-265-2211

平成26年

日時 **11/7** (金)
13:00~16:50

13:00~13:10

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
会長 藤井 久司

13:10~13:25

橋建協報告

広報委員会

第1部:技術発表会

13:25~14:05

1.日本と米国における
取り替え鋼床版事例の調査報告

床版小委員会 鋼床版部会 小笠原照夫

14:05~14:15

休憩

14:15~14:55

2.鋼コンクリート合成床版の
凍害に関する実験的研究

床版小委員会 床版技術部会 酒井 武志

14:55~15:35

3.鋼橋解体撤去工事の留意点

架設小委員会 架設部会 越中信雄

15:35~15:45

休憩

第2部:特別講演会

15:45~16:45

1.東北のインフラ整備の現状と展望
～橋に関わる話を中心として～

国土交通省東北地方整備局企画部長
安田 吾郎



16:45~16:50

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会 委員長 上原 正

申込方法

①Fax. 022-262-4855(裏面の用紙に記載)

②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>

の「技術発表会申し込み受け」まで(受付は9月上旬から)

申込期限

平成26年10月24日(金)

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 東北事務所

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-1-31(山口ビル)

高田機工内 TEL 022-262-4855

継続教育

CPDS認定予定

※東京地区は 10月10日(金) 銀座プロッサムホール

大阪地区は 10月17日(金) ドーンセンター

北海道地区は 11月14日(金) ホテル札幌ガーデンパレス

九州地区は 11月28日(金) レソラNTT夢天神ホール

中部地区は 12月 5日(金) 東建ホール

開催です。

申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

第1部:技術発表会のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望の方はダウンロードお願いします。

アクセス



●仙台駅西口/バスプール9番乗り場より「仙台国際センター」行き、
「博物館国際センター前」下車(バス移動約10分、徒歩約1分)
710(宮教大・青葉台)、713(宮教大・成田山)、715(宮教大)、
719[動物公園循環(青葉通・工学部経由)]、720[交通公園・川内営業所]
のいずれかにお乗りください。

技術発表会概要

1 日本と米国における取り替え鋼床版事例の調査報告

取り替え鋼床版は、日本では古い基準で設計、施工された橋梁のRC床版更新時に、橋梁本体の耐震性と耐荷力の向上を目的として採用することが多い。米国では、それに加えコンクリート系床版の劣化損傷が問題となり、100年以上の耐久性が期待できる床版構造として採用している。

今後、都市部で計画されている大規模更新工事などにおいて取り替え鋼床版のニーズが高まると考えられるので、日本と米国における取り替え鋼床版の事例を調査した。

2 鋼コンクリート合成床版の凍害に関する実験的研究

鋼コンクリート合成床版は、下面からの水分の発散がないことからコンクリート中の水分量が多くなると考えられる上、内部に鋼材が多いことで温度変化が大きく、RC床版に比べて凍害の進行が早くなることが懸念される。このため、合成床版の耐凍害性を調査することを目的として、合成床版を模擬した供試体による凍結融解試験を実施し、水分量、内部温度、スケーリング量などを計測した。ここでは、これらの結果について報告する。

3 鋼橋解体撤去工事の留意点

築後50年を経過する鋼橋が増加しつつあり、設置された環境と管理状況によっては損傷が激しく、補修を行っても要求性能を満足できない鋼橋もある。このような鋼橋については解体撤去となるが、損傷している鋼橋を切断し吊り上げるため、慎重な対応が必要となる。

ここでは、解体工法の選定方法例を提案するほか、具体的な事例をもとに解体の基本となる応力解放や部材切断作業時の安全施工上の留意点についてをのべる。

特別講演会

1 東北のインフラ整備の現状と展望

～橋に関わる話を中心として～

安田 吾郎 国土交通省東北地方整備局企画部長

一略歴一

- H26.4～ 国土交通省東北地方整備局企画部長
- H23.7～ // 総合政策局国際建設管理官
- H21.7～ // 河川局河川環境課
河川環境保全調整官
- H18.7～ 内閣府(防災)企画官
- H16.7～ 国土交通省関東地方整備局
ハツ場ダム工事事務所長
- H14.4～ 国土交通省東北地方整備局
山形河川国道事務所長

講演概要

現在、東日本大震災関連の膨大な復興需要に対応しながら、一方でその後も見据えた事業戦略を構築することが求められ、若手技術者の採用等に悩む経営者も多い状況と思われる。また、笹子トンネルの事故発生以降、構造物のメンテナンスの重要性についての認識が広まり、橋梁管理の手法にも変革が求められている。さらに、昨年、国土強靱化基本法の成立、そして今年、品確法の改正といった、建設業界を取り巻く法律や制度に関する変化も激しい。

以上のような状況を概説するとともに、今後へ向けての展望を論じる。

FAX番号:022-262-4855

平成26年度

11月7日(金)

橋梁技術発表会

[東北地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無